

## 平成29年度 第1回まちづくり審議会 議事要旨

日 時 平成29年12月1日(月)14:00～16:00  
場 所 兵庫県私学会館 2階 206号室  
出席者 相川康子委員、岡絵理子委員、片山朋子委員、角野幸博委員、小村崎栄一委員、住友聡一委員、鳴海邦碩委員、春名千代委員、人羅亜矢子委員、室崎千重委員、森津秀夫委員、岡つよし委員、向山好一委員、古谷博委員

### 1 議事の概要

#### (1) 会議の成立確認

過半数（17名中14名）の委員の出席により審議会成立。

#### (2) 会長の選出（報告）

互選により鳴海委員を会長に選出。

#### (3) 大規模小売店舗等立地部会の部会長及び委員の指名（報告）

部会に属する委員として岡絵理子、片山、小村崎、住友、室崎、森津各委員を指名。部会長には山下委員を指名。

#### (4) 副会長の選出

互選により角野委員及び山下委員を副会長にそれぞれ選出。

さらに、会長不在時に職務を代理する順位として、第1順位に角野副会長を、第2順位に山下副会長を指定（会長）。

#### (5) 議事録署名委員の指名（会長）

名簿順により春名、人羅両委員を今回の議事録署名委員に指名。

#### (6) 審議事項

事務局から、まちづくり基本方針の点検・評価を踏まえた重点プロジェクトの検討について説明し、その後意見交換を行った。

重点課題（検討テーマ）の検討については、本日の意見を踏まえて再度整理し、次回に報告することとなった。

### 2 主な意見交換

<資料1、2、3 参考資料1～9>

#### 【委員】

高齢化が進み、地域のコンパクトな移動手段がどんどん奪われてきている。

今後、さらに高齢化が進む中で、バスなどの交通手段は採算が合わなければ廃止される一方で、法改正により可能となった運行方法の多様化や運転士不足の解消に繋がる自動運転技術の進展などの話題もある。

これからこの問題がさらに進展していく中で、どういう方向で解決するのが現実的だと思っているのか。

#### 【事務局】

コミュニティバス事業の赤字は人件費がネックになっており、市からも自動運転技術の進展によって人件費が落ちれば、支援しやすくなると聞いている。それは一つの方向性ではあるが、全体の事例もまだ把握できていないので、今回の議論の中

でみえてきた課題を深掘りして、今後どういう施策があるかを議論していきたい。

### 【委員】

環境と共生の重点プロジェクトにある、「地域エネルギーの自立化」はどのようなイメージなのか。メガソーラーや家庭用以外の太陽光発電などが地方でも増えているものの、太陽光で発電した電力はすべて関西電力が買い取っている。それで地域エネルギーの自立化が進んでいるとってしまっても良いのか。

地域ごとの自立化とっているが、少しでも地域で再生可能エネルギーを増やし、まちづくりの中に活かしていこうと考えているということではよいか。

### 【事務局】

現在の基本方針では、それぞれの地域で必要なエネルギーを創出し、地域におけるエネルギーの自立化を進めると書いている。しかしながら、具体の取組はすすんでいないため、地域で生産された太陽光発電の電力がどこで消費されているのかはわからない状況である。

### 【委員】

市町の施策実施率は、施策をしているかどうかだけの情報で、詳しい内容など中身に関するデータがない。毎日やっているものと、月に一度しかやらない事業では、取組の進み具合が違うのではないか。

多自然地域は住み続けることが難しくなっている。介護の問題や移動手段の問題についても、この5年でずいぶん劣化が進んでいる。

しごとの創出についても、経済、業務優先の商工振興的な観点では挙がってこなかった、コミュニティビジネスなどの取組に解決の糸口があると思うので、新たな特産品や新たなビジネスの「新たな」という部分へのこだわりをやめたほうがいい。

また、「個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト」にある「拠点」は、地区外から訪れる観光客のための施設ではなく、空き家などを活用した、地元の人たちが集まってこられる「居場所」と考えていく方がいいのではないか。

### 【委員】

福祉分野において地域包括ケアシステムが必要といわれている中で、福祉サービスも地域のコミュニティで担っていかなければいけない部分が多くなる。しかしながら、福祉部局だけで対応しきるのは難しいので、先ほどの居場所のようなコミュニティづくりなど、福祉部局と連携できる重点課題が作れるといい。

集落に住む人を無理に移住させるのは難しいので、自宅は残しつつ、比較的便利な場所と2拠点で生活しながら、緩やかに移住を進めるしくみができないか。都市部の人々が田舎暮らしをしたいという「楽しみ型の2拠点居住」とは別に、「集落での暮らしを維持するための2拠点居住」にも支援できればいいと思う。

住宅を集積させる場所では、空き家活用のための積極的な支援や、空き家所有者が手放しやすくなるような支援などが実施できればいい。

## 【委員】

これまでの活動を通して、郊外部のまちづくりでは、ショッピングモールなどの大規模店舗に、行政機能も含めたまちの機能をすべて集約する方向にあると感じているが、本日の資料には「駅前や商店街に活気が感じられる」など、市街地の中心部を想わせる言葉がたくさん挙がっている。

郊外部におけるまちづくりの方向性として、兵庫県では、駅前などの市街地の中心部と新たに造成される大規模店舗周辺部のどちらを重視しているのか。

## 【事務局】

今のまちづくり基本方針は、市街地の中心部を維持していく方針で、郊外部に大規模施設を立地して、そこに機能を集めるような方向では書かれていない。旧市街地やまちなかの機能をきちんと維持していく方向で、まちづくり基本方針は書かれている。

## 【委員】

地方都市には賑わいが無いといわれているが、行くところに行けばロードサイドにたくさんの店が並んでおり、そんな雰囲気はない。これは、めざすべき将来像と都市計画とが合っていないからではないか。それをあわせていかないと、めざすべき将来像に近づいていかない。

市街地の中心部を重視して、歩いて暮らせるまちという方向性でいくのであれば、もっと集約型の都市構造を目指すなど、別の方法がきっとあると思う。

## 【事務局】

都市計画マスタープランでも、できるだけ「今の状況を維持しながら暮らしていける方策を探していく」というコンセプトで書いており、集約型というところまではまだ来ていない。まだまだ道半ばではあるが、兵庫県の目指す方向は、旧市街地やまちなかの魅力をどうやって維持していくかを考えることだと思う。

## 【委員】

点検評価の結果をもとに、評価の低い部分の底上げを図るのが今回の趣旨だと思うが、評価がなぜ低いのか、何が原因でプロジェクトが進んでいないのかを突き詰めないと、次どうするのかが出てこない。また、進まない原因を突き止めた上で、さらなる新しいプロジェクトが必要なのか、あるいは現プロジェクトを補強する形がよいのかの見極めも必要。

なかには方向性としては正しくても、なにをやっても簡単には状況が変わらないものもある。評価が低いからといって、何が何でもそれをやるというのは難しいのではないか。

## 【委員】

もっと効率よく議論するテーマを探すのか、すべての課題を議論して、課題となる部分を探すのかで、委員の皆さんの聞き方、考え方が変わる。

事務局のイメージとして、どちらをイメージして議論すればいいのか、教えて欲

しい。

### 【事務局】

今回の検討は、平成31年度の新たな施策に結びつけたいので、実現可能性が高いもの、県として本当にやらなければならないものに絞り込んでいく方向で考えたい。

### 【委員】

4つの柱の中で、「魅力と活力」はかなり競争的な要素が強い。一方で、「安全・安心」や「自立と連携」は、それぞれの生活空間ごとに一定水準をきちんと維持ができるかが課題になる。また、「環境と共生」ではその地区のことだけではなく、もっと広範囲、県全体の話として考えなければならない。テーマごとに微妙に性質が違うので、落としどころや方向性を同じように考えないほうがよい。

また、取組の受け皿となる市町や地域、事業者が本当にいるのかどうかも、絞り込みの重要な指標になる。

### 【委員】

実際に施策に取り組むのは市町職員や住民なので、県が提案するプロジェクトとは「しくみを作る」ということ。すべてを県が実施するわけではないので、プロジェクトの展開の仕方もあわせて説明して欲しい。

### 【委員】

今回の評価結果は市町職員への照会を元に集計されているが、これは住民の方との話し合いなど、住民意見を反映させたものなのか。

基本方針を使って事業を実施しているのは住民なので、住民意見が反映されていない今回のデータには違和感がすごくある。

### 【事務局】

市町のまちづくり担当職員の感覚で答えていただいている。

市町担当者の感覚が本当に正確な（住民意見を反映できている）のかはわからないが、傾向としては間違っていないと考えている。

### 【委員】

行政職員と私たち市民活動をやっている者とは感覚にズレがある。行政だけの評価では違和感がある。

### 【委員】

言われていることはわかるが、個別の施策に対する意見をいってもらわないと対応ができない。全体的に違和感があるといわれても、どこのどの部分に違和感があるかをいってもらわないと話が次に進まない。

### 【委員】

兵庫県内には多様な地域がある中で、県レベルのすべてをまとめた計画を作るの

は難しい。規制緩和など、県から具体的なメニューの提示があれば、事業が早く進むので、いろいろな面から検討した対応策を、複数提示してもらいたい。

それを、それぞれの市町が自分のまちにふさわしいもの、使えるようなものをピックアップできるように考えて欲しい。

#### **【委員】**

これからの進め方を考えるにあたって、「自立と連携のまちづくり」がキーワードになる。目指しているところは、地域住民が、自分たちが暮らしやすいまちを、自分たちでつくるというところ。

「自立と連携」をキーワードとして、まちづくりのしくみを考えていけば、分野やエリアにこだわらずに考えることができるのではないか。

#### **【委員】**

4つの地域というのは一体どこなのかということについて、もっと具体的な図を作ったほうがいい。

今回検討するプロジェクトが、これからどういう風に展開するのかということも示さないと単なるスローガンになってしまう。どの地域に、どういう風に広がっていくか、誰がどのように事業を進めていくのかについて説明してもらいたい。

あと2回しか議論の場がないので、検討の順番を戦略的に考えてもらいたい。

#### **【事務局】**

今日いただいた意見を少し整理し、会長とも相談しながら、どういう組み立てで、次回以降検討いただくかを整理し、いただいた意見、どういう絞り込みをするかということも踏まえて、戦略をつくっていく。

(以上)